

研修 高松 「自分の考え，感じたことを表すために必要な『表す力』をつける」
 「ことばあそびうたをつくろう」(1年)

司会者	高・植田小	教諭		
提案者	高・植田小	教諭	高・川添小	教諭
	高・国分寺南部小	教諭	高・鶴尾小	教諭

1 提案の概要

(1) 主張点の説明

- ・ 経験や感性を大切にしながらイメージを言語化することで，意味を理解して言葉に表す面白さを感じ，言葉の世界を広げることができる。
- ・ 生活の中の言葉を使って楽しむことのできる言語活動を工夫することで，児童が書きやすくなるとともに友だち同士の交流がしやすくなる。
- ・ イメージを言語化することで言葉の世界を広げ，言葉が表すものを具現化してとらえることができる。

(2) 実践発表

つまずきに応じたワークシートの工夫

ア 題材について感じたことや抱いたイメージを言語化するワークシート

イメージしやすい身近なものを題材として選ぶよう支援する必要がある。

イ 視点を示すことで五感を使って感じたことや思ったことを言語化するワークシート
 なぞなぞの答えとなる文字から始まる言葉集めをする必要がある。

↓ ア，イの実践を受けてワークシートを改良した

ウ 視点を示した上で，さらに答えとなる文字から始まる言葉が書けるワークシート

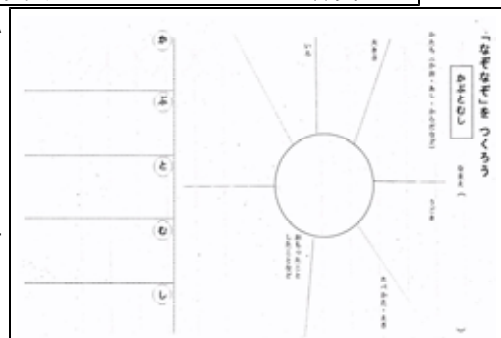
名詞よりも様子を表す言葉を見つけるようにするとなぞなぞが作りやすい。

指導過程の工夫

身近な題材を共通教材としてなぞなぞを作る活動を取り入れることで，今後の学習の土台となる学び方や思考のパターンがつかめる。

イメージを広げ言葉を増やすための工夫

- ・ 友だちとの話し合い…… 一人からペア，全体へと交流の場を広げ，自分では思いつかなかった言葉を知ることができるようにする。
- ・ 言語環境の整備…… クラスで作成した言葉集め表を掲示したり辞典を活用したりして，普段から様々な言葉が使えるようにする。



(「かぶとむし」のワークシート)

(3) 演習 上記ウのワークシートを使って「かぶとむし」のなぞなぞ作り

2 成果

- ・ 共通教材から始めたのは学び方をつかむのに効果的であった。
- ・ 絵や写真を提示したりワークシートを工夫したりすることで，多面的な視点からイメージすることができ，言葉が広がった。

3 課題

- ・ 言葉の羅列に終わってつながりが考えられなかった場合は，つながりについて教師が例を示すなどの個別の支援や友だちとの交流が必要である。
- ・ 一人一人の経験や言語力の個人差があるため，日常生活の中で様々な言葉とふれあう機会がもてるよう言語環境を整えていく必要がある。

自分の考え，感じたことを表すために必要な「表す力」をつける
「ことばあそびうたをつくろう」（1 年）

主張点

1 書くことによって言葉の世界を広げる

本単元は，生活経験と関連させて，感じたことや思ったことを言葉として表し，さらにその言葉をつなげることで，語感やリズム感を楽しむ学習である。児童の経験や感性を大切にしながら，自分の抱いたイメージを言語化することで，意味を深く理解して言葉に表す面白さを感じ，言葉の世界を広げることをねらう。

2 生活の中のことばを使って楽しむことができる言語活動

児童の興味を引く「なぞなぞ遊び」

児童が生活の中で家族や友達と楽しんでいる「なぞなぞ遊び」という言語活動を行う。集めた言葉をもとに「なぞなぞ遊び」の問題を作ろうとすることで，児童は意欲や目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができる。なぞなぞの問題を作るということは，言葉と言葉のつながりに気を付け，言葉の簡単な構成を行うことになる。また，問題を作って終わりではなく，友達どうしが言葉の響きを楽しみながらなぞなぞ遊びで交流できる。楽しんで言葉に親しみ，交流できる言語活動である。

身近なものから

生活の中の身近にあるものを言葉にして書き集めることで，児童は書きやすくなる。誰もが知っている共通したものを言語化することで，ふだん無意識に使っている言葉を意識できるようになるとともに，言葉を共通基盤に友達同士の交流がしやすくなる。

イメージを言語化

五感を使って感じたことや思ったことを言語化することで，自分の中のイメージを言葉で表すことができるようにする。それは，言葉の世界を広げ，言葉が表すものを具体化してとらえることになる。しかし，経験や言語力の個人差等から，イメージを言語化しにくい児童もあり，そこに，友達同士の交流によって多様なものの見方や感性を育てる必要が出てくる。

1 学習指導過程（単元計画）

「ことばあそびうたをつくろう」（6時間）

次	学 習 活 動	評 価 規 準	評価方法
一次	「なぞなぞ」を読み取り，ことばあそびうたの仕組みを理解する。 (1時間)	<p>関 アクロスティックに関心をもち，進んで「なぞなぞ」の音読に取り組もうとしている。</p> <p>読 アクロスティックの仕組みを理解し，「なぞなぞ」を読んでいる。</p>	<p>行動観察</p> <p>音読</p> <p>発言</p>
二次	<p>共通教材（アサガオ）の特徴をワークシートに書き，それをもとに「なぞなぞ」を作る。 (1時間)</p> <p>身近な物の名前の特徴をワークシートに書き，それをもとに「なぞなぞ」を作る。 (1時間)</p> <p>同じところのある言葉を集め，文を書く。 (1時間)</p>	<p>書 アクロスティックを意識して「なぞなぞ」を書いている。</p> <p>書 ワークシートに観点ごとの特徴がまとめられている。</p> <p>読 ことばあそびの仕組みを理解して教科書の詩を音読している。</p> <p>書 同じところのある言葉を用いて，文を書いている。</p>	<p>ワークシート</p> <p>音読</p> <p>行動観察</p>
三次	<p>作った「なぞなぞ」や文を発表し，感想を話し合う。(1時間)</p> <p>漢字やカタカナの学習をする。 (1時間)</p>	<p>読 友達の作ったことばあそびうたや同じところのある文を読み，仕組みや楽しさを読み取っている。</p>	<p>発言</p> <p>ワークシート</p>

* アクロスティック・・・各行のはじめの文字をつなげると，ある語になるような詩

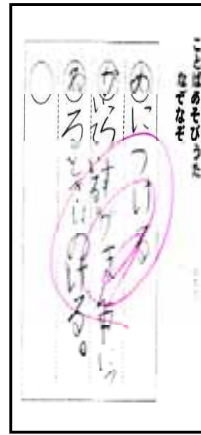
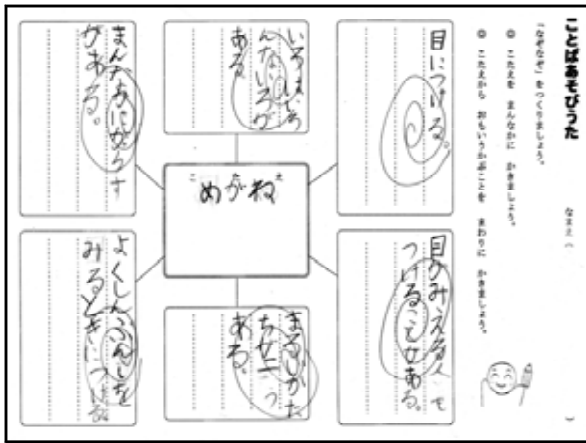
2 指導過程の工夫と子どものつまずきに応じたワークシートの工夫

ことばあそびうたを作るステップとして，題材についてイメージを広げるワークシートを作り，支援を行った。

(1) 題材について感じたことや抱いたイメージを言語化してワークシートに書く。

児童が選んだ言葉から思い浮かぶことを書くことができるワークシートを用意し，言葉からイメージするものを思いつくままに書かせた。児童はイメージしたものを吹き出しにたくさん書くことができた。その際，目で見ただけだけでなく，聞いた音，におい，食べたこと，さわった感じ等，五感を通して感じたことや，思ったこと等いろいろな視点で書こうと努力する児童もいたが，多様な視点で書くことができずに，外面的な様子ばかりで書く児童も多かった。生活の中で身近なものを言葉に選んでいた児童は，自分の体験と結びつけながら，どんどんイメージを膨らませることができるが，見たことはあっても，自分にとって身近ではないものを答えに選んだ児童にとっては，多面的にイメージを広げることは難しかったのだと考えられる。文章を作ることが苦手な児童や語彙の少ない児童にとっては，イメージしやすい身近なものを選ばせることも必要な支援であると分かった。

このワークシートを使って広がったイメージから，ことばあそびうたがスムーズに作れた児童もいたが，たくさんイメージしたにもかかわらず，その言葉がことばあそびうたの作品作りにうまく生かせなかった児童もいた。



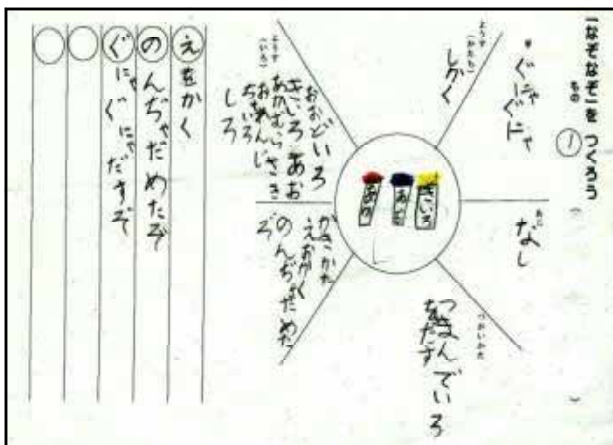
ワークシートに書いた言葉がそのまま使える場合は、それを使って作るよう助言した。
 答えとなる文字から始まる言葉がない場合には、その文字からはじまる言葉で思いつくものを挙げさせ、答えとつなげられそうな言葉はないか考えさせた。

作品作りに苦慮していた児童一人一人に関わり、みんなが作ることができるようにするためには、長い時間を必要とした。言葉からイメージを広げる際、多様な視点で考えさせるため、あらかじめ視点を示して連想させたり、その答えの文字から始まる言葉を連想して書かせる活動を設定すれば、もっとスムーズにことばあそびを作ることができるのではないかと考えた。

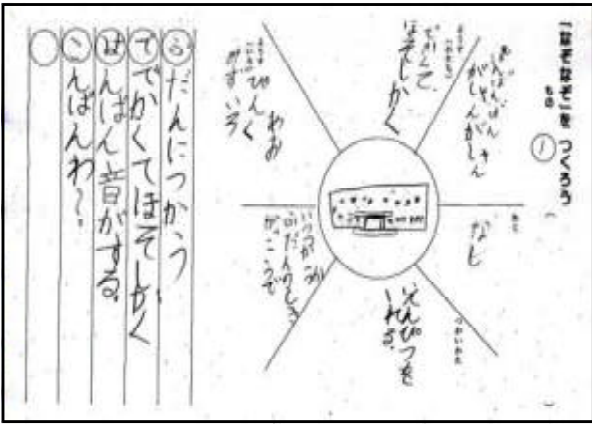
(2) 五感を使って感じたことや思ったことを言語化するために、視点を決めて書く。

視点を示して、言葉から連想できるたくさんの言葉を引き出す。

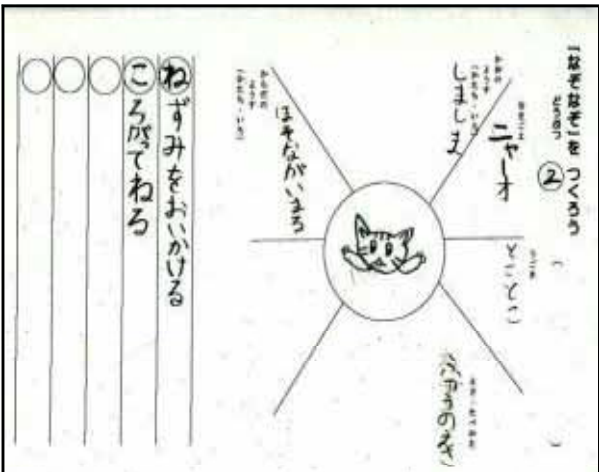
例 どうぶつ...かおのようす からだのようす なきごえ うごき えさ・たべかた 等
 もの...ようす(かたち・いろ) 音 あじ つかいかた 等
 児童が選んだ言葉から思いつく言葉を視点ごとにどんどん書かせた。



視点からたくさんの言葉を見つけ、その中から言葉と言葉のつながりに気を付けて組み合わせ、うまくなぞなぞが書けている。
 たくさんの言葉が見つければ、その中から合う言葉を選べることもある。
 作りたい言葉によっていろいろな視点が考えられる。あえて何の視点も書いていない場所を作っておくと、イメージを広げながら、自分で他の視点を思いついて書いている児童もいた。



視点からたくさんの言葉を見つけてその中から答えとなる文字からはじまる言葉を書こうとしたが、最後だけうまくつながるような言葉が見つからず、苦しまぎれにあまり関係のない言葉をつけている児童もいた。



視点をもとに言葉を見つけているが、答えとなる文字からはじまる言葉と違ったためその言葉を使わず、なぞなぞを考えた。

能力の高い児童は答えとなる文字からはじまる言葉だけでイメージを広げてなぞなぞを考えることができるが、視点をもとに言葉を考えるだけでは作れない児童も多い。答えとなる文字からはじまるいろいろな言葉をたくさん書き出すと作りやすくなるのではないかと。

(3) 共通教材から出発し、題材を広げる (指導過程の工夫)

まず最初のステップ段階として、身近な題材を共通教材とし、みんなで作ってみる活動をはじめに設定することが効果的であると考えた。みんなが生活科の学習で育てたアサガオを共通教材とし、その特徴や自分が関わったこと、感じたことを言葉に表し、ことばあそびうたを作った。全員の共通した体験活動を想起させて書かせることで、イメージの言語化や友達どうしの交流をしやすくした。このステップ段階での学習を行うことで、今後の学習の土台となる学び方や思考のパターンがつかめるようにした。

